

西宮夙川RCの中西様、米山奨学生の金くんようこそいらっしゃいました。

年末家族例会で中川尚美親睦活動委員長、委員のみなさま、大変お世話になり、またつぶら会、ご家族の皆様には多数ご参加いただき、有難うございました。素晴らしい会場をお世話していただいた佐々木会員に感謝申し上げます。音楽演奏、楽しい抽選会、大いに盛り上がり楽しいひととき有難うございました。

誰が言い出したのか、プロ野球でブルペン捕手のことを「壁」といわれています。投球練習の相手をする欠かせない存在なのに、失礼な言い方だと思います。広島カープの最近の若手選手の躍進、そして若手のはつらつとしたプレー、皆様もお分かりだと思います。

2軍監督はブルペン捕手出身の水本監督です。

彼は倉敷工業から社会人野球の松下電器を経て 1990 年入団テストを受け、ドラフト外で入団し、しかし現役は2年間だけでした。ブルペン捕手を 15 年間務める間に投手の信頼を集めてコーチ補佐となり、昨年からは2軍監督となり、今シーズン2軍でソフトバンクが5連覇していたのを止め優勝をしています。彼はすべてが勉強といいます。アテネ、北京五輪の日本代表チームにブルペン捕手として帯同したときには、代表選手に練習法や考え方を聞きまわり、何かを持ち帰りたかったそうです。2軍選手が直面する1軍への壁こそが挑んできたテーマであり、永年の経験から成功する選手には共通項があるといわれています。

「練習の中で自分を感じて自分で行動できる選手」つまり自ら欠点弱点を理解し、克服できるということです。勉強意欲や吸収意欲が旺盛で人をいかに動かすかを考え、言葉遣いひとつにも注意を払います。

名選手は名監督にあらずとよく効きますが、実績のある選手が名指導者になるとは限りません。人の痛みが分かる苦労人にエールを送りたいものです。

私の大先輩であり広島に捕手として入団し、現役時代はほとんど実績がなく、阪急ブレーブスで名監督になった上田さんの後を追いかけて夢を実現していただきたいと願って、私もロータリーのなかで自分を感じて自分で行動できるロータリアンになりたいものです。